

# 未来への遺産

長野県

## 漆黒の天守 松本城と城下町湧水群



松本城

築城四百年余を経過している松本城の天守。戦国時代末期に建てられた後、消失や再建をされずに残っている五重六階の天守は、国宝にも指定されており、城壁は漆黒の下見板張りであり、白漆喰とのコントラストが美しい建物です。この天守は、豊臣秀吉が一五九〇（天正十八）年小田原の戦の後、関東の徳川家康を監視するために築造させたとされており、石落しや狭間を備えた実戦的な造りで、戦国時代の城の特徴を伝える貴重な存在です。

また、天守の南東には月見櫓が増設されていますが、これは時の政権が豊臣から徳川に移った後、三代將軍徳川家光の従兄弟松平直政が増設したもので、総檜造りで白漆喰の大壁という瀟洒な造りは、戦略的拠点としての天守とは対照的。戦国時代と江戸時代の建物が連結した天守群が形成されています。

天守の中を最上階の六階まで登ると、晴れた日には雄大な北アルプスが一望できます。時の城主もこの雄大な景色を眺めていたのでしょうか。

そして眼下に広がるのは城下町・松本。かつての城下町の面影を残す松本市内には現在でも多くの井戸や水路があり、暑い夏でも涼しい風を感じることができます。これらの湧き水は「まつもと城下町湧水群」と



まつもと城下町湧水群（源智の井戸）



まつもと城下町湧水群（女鳥羽の泉）

して平成二十年に環境省の「平成の名水百選」にも選ばれ、現在でも周辺住民の生活には欠かせません。また、井戸や水路を巡る散策を楽しむ人も増え観光資源としても注目を集めています。

長野県では十月から三ヶ月間「信州ステイネーションキャンペーン」未知を歩こう。信州を開催し、城下町湧水群を始め長野県のさまざまな魅力を全国に発信してまいります。

お問い合わせ

長野県観光部観光振興課

TEL 〇二六―二三五―七二五四

松本市商工観光部観光温泉課

TEL 〇二六三―三四―三〇〇〇